

研究所だより

第127号 令和5年3月
発行：草津市立教育研究所

令和4年度をもってご退職される先生方を代表して、お二人の先生方にお言葉をいただきました。

「保育は未来を拓く」～保育の専門性を求めて～

子ども未来部副部長 前田 典子

私は初め、小学校の教員をめざしていました。実習の教官は山田小学校の和田敦先生で、先生の授業は、たいへん素晴らしく、いつも子どもの心をつかんでおられました。先生は、生活に課題はあるけれど算数好きだった A くんのために、授業を工夫し、彼の考えや疑問を拾い上げ、クラス全体の気づきや学びにつなげておられました。私は学生ながら、先生の教師としての技術に感動し、その専門性に敬服しました。実習後には先生の著書「教育の人間化と学習過程の改善」をいただき、今も大切にしております。

いろいろあって、幼稚園教諭に採用されることになった私に、和田先生は「自宅には、子どものために砂場を作った」という話や、「砂場」という空間の中で育つ「子どもの学びや育ち」、それに関わる「幼児教育の重要性」を熱く語って、私にエールをくださいました。

教師になって40年、今改めて和田先生の言葉を思い出します。幼児は机に座って学ぶのではなく、砂や水、風や光、花や生き物等と深く関わりながら、自然の摂理や人とのかかわりを学び、人としての知恵や力を身につけていきます。「保育は未来を拓く！」そんな自負をもって後輩の先生方には、これからも邁進してほしいです。



「置かれた場所で咲きなさい」

老上小学校長 西村 洋

この言葉は、ノートルダム清心学園理事長を務められていた渡辺和子さんの著書の題名です。

今、自分が置かれている状況下において、不満を言ったり、意欲を無くしたりする毎日を過ごすのではなく、その中でできることを見つけ、力を発揮するという教えと理解しています。

私は、37年間の教員生活の中で、希望とは違う学年や校務分掌、所属先で勤務することがありました。また、自分の力量では荷が重いと感じた職務を受け持つ年もありました。しんどくなった時には、思うようにいかない現状から逃避したり抗ったりしたくなる思いがよぎり、悶々とする中で仕事先に向かっていました。そんなある日、自分の様子を察した先輩教員から、「置かれた場所で咲くのや」と叱咤激励されました。私は自省し、担当する仕事のねうちを再考して、自分のエネルギーに変えようと思い直しました。今振り返れば、その経験が私を成長させる礎（財産）となっています。

令和4年度も終わりに近づいてきました。皆さんは今年度の仕事への向き合い方はいかがでしたか？

4月からは新たな職場でスタートを切る方や、同じ職場ではありながら、子どもたちとの新たな出会い、今年度とは違う役割を担うことになるでしょう。どうぞあなたのよさを生かし、担当する仕事にやりがいと楽しみを見出して仕事を進めてください。私も気持ち新たに頑張ります。



令和4年度 草津市教育研究奨励事業

今年度も多くの先生方が本事業に応募してくださいました。ありがとうございました。

教育研究奨励事業は、市内の教職員・保育士の自発的な教育研究活動の促進を図るため、個人またはグループの研究に対して奨励賞を授与しています。研究に取り組む中で、教育・保育現場における意欲的かつ創意あふれる学級、学年、学校・園・所の経営ならびに学習指導法の改善と充実につながることで、教職員・保育士の資質向上、草津市の教育・保育の向上を図ることを目的としています。

今年度の応募状況は以下の通りで、応募総数は45点でした。

	保・幼・こども園	小学校	中学校	合計
①就学前教育研究部門	6点			6点
②ステップアップ研究部門		10点	2点	12点
③フレッシュ研究部門		20点	7点	27点
	6点	30点	9点	45点

応募者は若手の保育士、教職員から管理職に至るまで幅広く、また継続して応募される方もおられます。研究主題は、児童が主体となる授業づくりや ICT 機器(タブレット型 PC)の活用などに関するテーマが、多く見られました。



令和5年2月17日(金)に、教育研究所2階研修室において、草津市教育研究奨励事業表彰式を行いました。草津市立教育委員会 藤田雅也 教育長より賞状、草津市教育会 稲垣保善 会長より副賞が授与されました。校園所賞には、老上小学校と笠縫小学校が選ばれました。おめでとうございます。



今年度御応募いただいた研究主題および審査結果の一覧を掲載しています。また、研究論文は [Teams の「教材共有ポータルサイト」](#)に掲載しますので、ぜひ御一読ください。

最優秀賞・優秀賞に輝いた先生方の中から、次年度夏季休業中の研究発表大会において研究内容を発表していただく予定です。

今後とも教育研究所の研究奨励事業への御支援、御協力をよろしくお願いいたします。

御応募、ありがとうございました！
来年度もたくさんの先生方の御応募をお待ちしております。



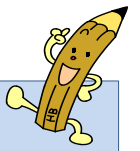
令和4年度 研究奨励事業 審査結果

部門	学校名	形態	応募者(グループ名)	研究主題	賞区分
就学前教育研究部門	1 草津中央おひさまこども園	グループ	きらきらおひさまパルーン隊	特別な支援が必要な子どもが主人公になる保育環境づくり ～クラスを超えて「やってみよう」「たのしかった」と思える支援の在り方を探る～	奨励賞
	2 笠縫東こども園	個人	吉村 涼	廊下改造プロジェクト～2階から感じる身近な自然環境～	最優秀賞
	3 山田こども園	グループ	ぼちぼちいこかの会	教育・保育の今と未来を紡ぐ園経営 ～山田こども園第2ステージへ、新米管理職ベアの挑戦～	優秀賞
	4 山田こども園	グループ	あおばなチーム	しなやかな心と体を育む遊びの充実 ～遊びの出会いから運動大好きブームを巻き起こそう！～	奨励賞
	5 玉川こども園	グループ	チームTGK!	目指せ！記録の達人 ～記録から読み取る、環境構成と保育者の援助を探る～	奨励賞
	6 草津第二保育所	個人	高井 美枝	乳児期の保育所での愛着関係の形成における保育者のかかわりと遊び	奨励賞

ステップアップ 研究部門	1	志津小学校	個人	西村 陽介	論理的な思考力が必要となる単元において、フローチャートの作成を取り入れて学習を進めることの有効性 ～単元を通して「New草津型アクティブ・ラーニング」の実践を通して～	奨励賞
	2	渋川小学校	グループ	渋川小学校学力向上部会	子ども達の主体的で対話的な授業作りをめざして ～私たちのいっしょから始める～	奨励賞
	3	老上小学校	個人	小森 裕美	「自分から・いっしょに・できた！」本気になれる探究的学習を目指して ～OIKAMI型スクールESDの創造～	最優秀賞
	4	老上小学校	グループ	ESD推進 チーム老上	地域とつながり 未来を拓く 老上っ子の育成	優秀賞
	5	玉川小学校	個人	潤井 健人	子どもたちの「投げる力」の向上を目指して	教育研究所賞
	6	南笠東小学校	個人	池田 和基	特別支援教育の視点を取り入れた不登校支援 ～一人一人の居場所のために～	奨励賞
	7	南笠東小学校	グループ	南笠東小学校校内研究推進委員会	自分の考えを「話したい」「かいてみたい」と思える授業の創造 ～「ふりかえり」を生かした授業づくりを通して、算数科学習に主体的に取り組む態度を養う～	奨励賞
	8	笠縫小学校	グループ	笠縫小学校校内研究部	「心が動き、発見する喜びを育む」校内研究の取り組み ～算数のよさやおもしろさを感じられる活動を通して～	奨励賞
	9	笠縫小学校	個人	太田 泰史	通常学級に在籍する発達障害児への早期支援の在り方に関する調査研究 ～2年間にわたる調査結果から「支援につながらない」原因を探る～	奨励賞
	10	笠縫小学校	個人	中波 慎	SDGsに関心をもち、行動しようとする子を育成するための実践研究 ～社会科 DE SDGs～	奨励賞
	11	草津中学校	個人	水谷 哲郎	「中学校社会科授業における知識・技能の階層を意識した学習課題の設定」 ～知るだけから分かる、使える知識の習得を目指して～	優秀賞
	12	新堂中学校	個人	脇坂 幸子	発達障害のある生徒の自己理解を深める教育 ～通級指導教室における自立活動の実践～	奨励賞

フレッシユ 研究部門	1	志津小学校	個人	古賀 安人	1人1台端末を文房具のように使える子どもを目指して	奨励賞
	2	志津小学校	個人	川端 由起	言葉にこだわる子どもの育成と課題解決力をつける授業の工夫	奨励賞
	3	志津小学校	個人	大畑 翔平	読み解く力を生かし、「わかった！」があふれる算数科の授業づくり ～対話を通して考えを深め、学び続ける児童の育成～	奨励賞
	4	志津南小学校	個人	前野 夏音	「伝えたい」「歌いたい」思いを広げる音楽教育を目指して	優秀賞
	5	草津小学校	個人	山田 俊一	教職員の体育科の授業力向上を目指して	奨励賞
	6	草津小学校	個人	田中 天友里	好ましい人間関係育成のための支援の在り方を考える	奨励賞
	7	草津第二小学校	個人	宮島 佑真	子どもの投能力の向上に関する研究	奨励賞
	8	渋川小学校	個人	貴島 柚子	課題を見出し、主体的に解決しようとする集団づくり	最優秀賞
	9	矢倉小学校	個人	岡田 瞳	「いくぞ！がっこうたんけんたい」 ～学校探検を通して、学校が好きな児童の姿を目指して～	奨励賞
	10	矢倉小学校	個人	戸田 由香梨	～国語科「お手紙」を通して～ 「発達課題のある子を含めて全ての子が楽しく学ぶことを目指す授業づくり」	奨励賞
	11	老上小学校	個人	森田 壱生	タブレット型PCを活用した、算数科における実践研究	奨励賞
	12	老上小学校	個人	小林 広佳	主体的に読みを深め、考えを表現する力を養う授業づくり	奨励賞
	13	老上西小学校	個人	後藤 智恵	児童の主体的な学習指導の実践	奨励賞
	14	老上西小学校	個人	林 寛希	「低学年の児童が運動遊びをしながら、跳び箱運動に必要な身体操作が身に付く授業を目指して」	奨励賞
	15	玉川小学校	個人	井狩 直美	学級や学校生活をよりよくなるための活動を充実させ、自主的・主体的に活動できる子どもの育成を促す学級活動・児童会活動の在り方	優秀賞
	16	山田小学校	個人	瀧 弘人	操作活動を通して、数学的な見方・考え方を大切に授業の工夫	奨励賞
	17	笠縫小学校	個人	渡邊 真郎	「読み手を考えた文章で、相手を引きつけよう」	優秀賞
	18	笠縫小学校	個人	蘆田 陽菜	児童の学びにつながる算数科における授業での話し合い活動の実践	奨励賞
	19	笠縫東小学校	個人	吉田 郁弥	子ども達が疑問を持ち、主体的に学ぶ授業を目指して	奨励賞
	20	常盤小学校	個人	平尾 舞香	児童が「やってみよう！」と自ら進んで取り組みたいような支援の工夫～一人ひとりにあった支援～	奨励賞
	21	高穂中学校	個人	大久保 柚希	ICT機器を用いた実験・観察の実践	奨励賞
	22	高穂中学校	個人	成末 悠真	「自分との対話」「教材との対話」を意識させる授業実践	奨励賞
	23	高穂中学校	個人	三田 莉沙	ICT(タブレット型PC)を活用した授業実践	奨励賞
	24	高穂中学校	個人	荻松 梓	基礎・基本の定着を図る数学科の学習指導 ～スタートチェックと宿題による反復学習を通して～	奨励賞
	25	新堂中学校	個人	佐竹 二三也	「わからない」から「わかる」への変容を最大限に活用した学び合い活動の試み ～数学科における中一ギャップ克服をめざして～	優秀賞
	26	松原中学校	個人	西浦 多恵	学習者用端末を活用した授業実践 ～個別最適な指導による技術向上をめざす～	奨励賞
	27	松原中学校	個人	廣部 友亮	学習者用端末を活用し生徒の「見て伝える力」を伸ばす体育授業	優秀賞





研究主題 自ら「はてな」を見つけ、「やり方」を考える子を育てる算数授業
～「個別最適な学び」と「協働的な学び」という観点から学習活動を工夫して～

研究の概要

「学習指導要領の趣旨の実現に向けた個別最適な学びと協働的な学びの充実に関する資料」(令和3年3月文部科学省)では、「児童生徒が主体的に学習を進められるよう、それぞれの児童生徒が自分にふさわしい学習方法を模索するような態度を育てることが大切」と記されている。そこで、本研究では、児童が自ら「はてな(課題)」を見つける力や「やり方(計画や見通し)」を考え出す力を高めることを目指して、算数科の授業において、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の要素を含んだ学習活動を設定し、児童が主体者となって学びに向かう授業づくりに取り組んだ。

研究の方法

- (1) 研究協力校(草津第二小、玉川小、志津南小)にて、児童アンケート(意識調査)と本研究に係る算数プリント(調査問題)を実施して、**児童の実態や課題を把握**する。
- (2) 児童の実態や課題を踏まえ、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の要素を含んだ算数の**授業計画を構想**する。
- (3) 指導者と協働して**教材研究**に取り組み、本研究の**実証授業**を行う。
- (4) 事前・事後の児童アンケート(意識調査)と算数プリント(調査問題)の結果から「個別最適な学び」と「協働的な学び」の要素を含んだ**学習活動の効果を検証**する。

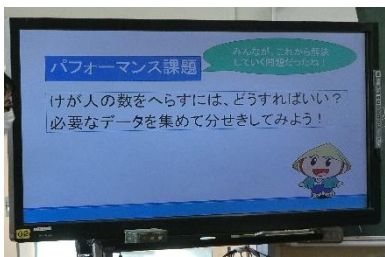
研究の内容 児童が主体者となって学びに向かう授業づくり

対象 : 小学5年生 **教科** : 算数科 **単元名** : 「帯グラフと円グラフ」

② 「はてな(課題)」を解決していく学習プロセス(単元計画)の構想

① パフォーマンス課題の設定

単元の導入に、パフォーマンス課題(単元の学習を通して、身につけた知識や技術を活かしながら、解決をめざしていく事柄)を設定する。そのパフォーマンス課題から、児童は自分の「はてな(課題)」を見つけ、それらを解決するために学習を進めていく。



単元の導入

パフォーマンス課題から、自分の「はてな(課題)」を見つける

単元の中盤

課題を解決するのに、必要な知識や技能を身につける

単元の終盤

既習内容を活用し、自分で学習活動を選択しながら、課題を解決する。

③ 「うろうろタイム」の設定

児童が目的をもって学習活動を選択し、課題解決に向けて自ら学習を進めていく時間として「うろうろタイム」を設定する。

- A: 自分で考える活動 B: 考えを聞く活動
C: 確かめる活動 D: やり直す活動

この4つから「やり方(計画や見通し)」を考え、児童が自分に必要な学習活動を選んで、課題解決学習を進めていく。



検証方法 : 算数プリント(調査問題)の結果、児童アンケート(意識調査)の変容、ふりかえりカードの記述、抽出児童の変容

研究の成果

- 本研究により、次の3点について可能性が示唆された。
- (1) **パフォーマンス課題の設定**は、児童が自ら「はてな(課題)」を見つける力を高め、主体的に学びに向かう姿を引き出す。
 - (2) **「はてな(課題)」を解決していく学習プロセス(単元計画)の構想**は、児童の主体的に学習を進めているという意識を高めることができる。
 - (3) **学習活動を選択できる「うろうろタイム」の設定**は、児童が進んで「やり方(計画や見通し)」を考え出す姿を引き出し、児童自身が考えの深まりを味わうことができる。

研究の課題

- (1) 児童が自ら課題解決できたという実感(成功体験)につなげるためには、十分な**単元時数の確保**が必要である。
 - (2) 児童が主体的に学習を進めるためには、**児童の意欲を維持するための手立てや工夫**が必要となる。
 - (3) 児童が課題解決に向けて必要な学習活動を選択できるようになるには、普段から他教科でも**対話活動の経験**を十分に積み上げておく必要がある。
- 本研究のような実践は、1回限りではなく、繰り返し積み上げていくことが必要だということがわかった。

研究協力校(研究協力者)

草津第二小学校(世良 琢磨 先生)、玉川小学校(折居 幸子 先生)、志津南小学校(大林 起彦 先生)
本研究の実践で多大なる御協力を賜りました皆様には、心より感謝申し上げます。ありがとうございました。



地域教材(わたしたちの草津)の編集について

「わたしたちの草津」編集委員会の活動について

活動の経過

- ・第1回推進委員会・編集委員会(全体会)・・・令和4年5月27日
- ・編集委員、推進委員による編集作業等・・・令和4年5月～8月
- ・第2回編集委員会(グループ作業)・・・令和4年8月23日
- ・第2回推進委員会(原稿確認)・・・令和4年12月26日
- ・第3回推進委員会・編集委員会(全体会)・・・令和5年2月7日

活動の様子



活動の内容

令和5年3月末に配布される「わたしたちの草津」改訂版に合わせて、現在の指導書を見直し、一部改訂、編集作業を行いました。また、ワークシート・評価テストの作成に向けてポイントを整理しました。

①指導書の見直し、一部改訂、編集作業

主体的・対話的で深い学びとなるように編集作業を行いました。特に、力を入れたのは、次の4点です。

- ①「単元目標」の見直しと「評価規準(例)」の記載
- ②「単元計画」の内容の見直し
 - ・単元を貫く課題(学習問題と表現活動の例)の設定
 - ・PBL(問題解決型学習)を意識して、疑問形になる課題の設定
 - ・具体的な【評価規準(例)】の記載
- ③「話し合い活動のポイント」と「タブレットPCの活用例」を充実
- ④参考資料に「QRコード」掲載

②ワークシート・評価テスト作成に向けて

3,4年生の先生方にアンケート調査を行い、活用の様子や御意見など情報を収集しました。それらを参考にしながら、よい点、問題点、改善点を出し合い、作成時のポイントをまとめました。

- ・写真や資料を見やすくする工夫
- ・指導書に準じた内容の精査
- ・評価しやすい採点基準や解答例
- ・データ資料の周知 等々...

次年度は...

これらのポイントを踏まえ、ワークシート・評価テストの作成を行っていく予定です。

編集に携わってくださった皆さん、御協力ありがとうございました。

社会科副読本「わたしたちの草津」改訂版の配布について

令和3年度より、部分改訂、編集作業を行ってきた新しい社会科副読本「わたしたちの草津」が令和5年3月末に配布されます。令和5年度の3年生から使用していきます。

改訂のポイント

- ①ESDの推進に向けた内容の見直し
- ②SDGsの達成に向けて考える子をめざした編集
- ③より学習指導要領に合わせた紙面構成
- ④グラフや資料、写真の刷新
- ⑤調べ学習の充実に向けてQRコードの挿入
- ⑥郷土愛を高める歴史的文化に係る資料の掲載



「わたしたちの草津」データ資料(Public-情報提供【教育研究所】)をぜひ御活用ください!

「わたしたちの草津」には、データ資料があります。それらを活用すれば、より授業が充実すると思います。データは、コピーすれば編集も可能です。ぜひ、提示資料、教材プリントなどに有効活用してください!

データ資料はここにあります!(令和5年度版)

- ①Public—情報提供【教育研究所】—わたしたちの草津(R5年度3年生用)
- ②Public—情報提供【教育研究所】—わたしたちの草津(R5年度4年生用)

こんなデータ資料があります!

- ① わたしたちの草津 PDF
- ② 使用している写真一覧
- ③ 指導書
- ④ ワークシート(PDFとWord版)
- ⑤ 評価問題(PDF)
- ⑥ 評価問題Word版



NEW 草津型アクティブ・ラーニングで授業改善 ～スキルアップ支援講座を振り返って

スキルアップ支援講座では、授業を参観させていただいて、「授業展開の工夫や学級経営のポイント」、また「ICT機器の普段使いを通して『個別最適な学びと協働的な学び』『主体的・対話的で深い学び』をどのように実現するか」について、対象の先生方とともに考えてきました。どの先生も、「少しでも良い授業をしたい」という思いをもって授業に取り組んでいただいているので、授業後に話をする中で、資料を出すタイミングや言葉の吟味などの工夫について、早速次からの授業に活かそうとする意欲的な様子が見られました。今後、教職の魅力を伝える推進者となっていただけるよう、期待をしています。



スキルアップ
対象者から

- ・ICTの活用方法や、生徒目線でICTの活動が効果的だったか等、客観的なご指導をたくさんいただきました。電子ボードやタブレットを使うことに抵抗があったため、とても勉強になりました。
- ・初任者研修を終え、自身の授業に対してフィードバックをもらえる機会が減った。なので、授業を参観させていただいて、第三者目線で評価してもらえることは、日々の授業づくりでとても役立った。また、担当の先生が、授業の良かったところを言語化してたくさん伝えてくださったので、働く意欲も向上した。
- ・授業後すぐに、指導助言等をいただけることは、振り返りにすぐ活かせるのでよかったです。もう少し支援講座を受講している者同士の交流の機会があれば、実践を交流したりふり返ったりすることにつながると思いました。

ICTスキルアップ支援講座を振り返って



スクラッチ



ドローン



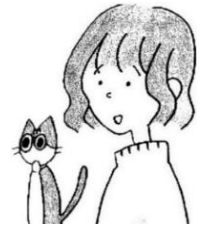
ペッパー

◆プログラミング学習の新たなページへ◆

平成 29 年度から 6 年間続けてきた「Pepper 社会貢献プログラム スクールチャレンジ」が終了となります。プログラミングを身近に感じさせ、児童・生徒の関心や学ぶ意欲を喚起した功績は大きかったのではないのでしょうか。草津市プログラミングコンテストでは、身近な生活や社会の課題の解決をめざしたレベルの高いプログラムが集まりました。Pepper 今までありがとう。この間に一人一台端末となり全児童生徒のプログラミング学習も推進されてきました。今後は Scratch などの教育用言語を活用してプログラミング的思考の育成を図っていきます。各校での授業事例が教材共有ポータルサイト・プログラミング授業動画で公開されますので、「草津市プログラミングモデルカリキュラム」授業の参考にしてください。



スクールソーシャルワーカー SSW恒松先生が語る シリーズ教育相談



「有機的なチーム対応」

しんどさを抱える子どもを支える為に「連携」「チーム対応」の重要性が高まっています。学校間連携だけでなく他機関との連携の機会も増えていますが、この多職種連携には以下の様なタイプがあるとされています。



①マルチディシプラリ・モデル

チームを構成する専門職の間に階層関係があり、各専門職のチーム内での役割は固定的

病院の手術チームなどに典型的なものです。例えば、手術なら執刀医が核となりますが、それをサポートする別の医師や看護師、臨床工学技師や放射線技師などがそれぞれの役割を果たします。リーダーの元で他の全員が動き（階層性）、各メンバーは予め決められた役割を果たします（役割の固定性）。

②インターディシプラリ・モデル

メンバー間に階層性はないが、各メンバーの役割は概ね固定的で一部流動もある

ケース会議やケアカンファレンスの多くはこの形になります。各々が平等に各専門性の枠内で発言しつつ（階層性なし）、それを超えての包括的な議論がなされます（役割は概ね固定だが一部流動的、相互作用性大きい）。

③トランスディシプラリ・モデル

役割固定が一層低く、各専門職の役割割代替が容認されている

野球チームがその典型です。例えばファーストの選手は常にファーストを守備するわけではなく、ゲームの動きに合わせてセカンドを守ったり、外野からのボールを中継したり、時にはホームを守ることもさえあります。各々が自分の役割に固執するとそのチームは負けてしまいます（役割固定制なし＝役割解放）。

しかし、**どの状況にも使える万能なモデルはありません**。その時々状況において有効と思われるチームを構築する、あるいはチームの形態を変えていくことが必要になってきます。この時に大切なのは、**チームのメンバー間で**今のチーム形態は何をどの形が適切かについての**共通理解を持っておく**ことです。これらは、校内での連携にも応用できると思います。

そして、チーム連携が有機的に展開されるためには、チーム内に次の5要素が必要だと言われています。

チーム内に
必要な5要素

- ① メンバー間で「そのチームの目的は何か」を絶えず意識化し共有を図る
- ② メンバー間の役割・責任分担・役割流動を明確にする
- ③ 各メンバーの強み、特徴を相互理解しておく
- ④ メンバー間で常に（短時間でいいので）情報共有を図る機会を設ける
- ⑤ 連続的な協力関係を続けるために、チーム内の誤解や葛藤を解消する
コンフリクト・マネージメントを行う



有益な連携を構築しながら、**チームで子ども達を支えていきたい**と思います。

やまびこだより

適応指導教室から

♪ 囲碁ボール ♪ 1月26日に開催したたびすけDAYでは、みんなで一緒に囲碁ボールをして楽しみました。それぞれのチームに分かれてボールが入った点数を競い合いました。



☆たびすけDAY



♪ バレンタイン調理 ♪ 2月20日、ひさしぶりにやまびこで調理に取り組みました。以前ここで収穫したサツマイモを使いチョコレートと組み合わせたオリジナルなチョコレート菓子に挑戦しました。みんなで美味しくいただきました。

適応指導教室には、今年度27名の児童生徒が在籍していました。先生方には、お忙しい授業の合間に適応指導教室の子どもの様子を見に来たり、各種行事の折に見学に来たりしていただき、ありがとうございました。教室に通う子ども達は、とても喜んでいました。また、各関係機関の方々にも大変お世話になりました。皆様この1年間、本当にありがとうございました。

相談室から

教育相談室での相談は、昨年度と同様に、中学生の相談が増加しました。傾向として、小学校中学年頃から学習に対して自信がなくなったり、友達や集団の中に入らなかつたりして、しんどくなるようです。学校や家庭において、子どもたちが出す様々なサインを見逃さずに早期に対応したいものです。

やまびこでは、SSW（スクールソーシャルワーカー）を常勤で配置し、保護者・児童生徒それぞれへの面談を受けて、学校と連携して複合的な課題を整理しながら、子どもや保護者が自らの力で問題に向き合っているよう支援しています。今後ともよろしく申し上げます。



第二回 不登校の子どもたちの保護者の集い

2月21日(火)に前回、好評だった「不登校の子どもたちの保護者の集い」第二弾を実施しました。今回は、講師として京都にあるオープンスペース「祐の風」代表の藤原祐子さんをお迎えしました。

前半は、藤原先生にご自身の経験から、親として不登校の我が子にどう関わればよいかについてお話いただきました。例えば、子どもが話してくることに對して、まずは「へえ～、そうなんだ!」と自分が納得できてもできなくても「あなたはそう思うんだね」と理解を示す

相槌で受け止めることや子どもの主張することに對してすぐにジャッジしてアドバイスをするのではなく最後まで思いを聞くこと、難しいかもしれないけれどもどうわべだけでなく信じること…など少しずつでも実践してみようかなと思うことをたくさん教えていただきました。また、一番大切なことは、子どもと関わる親御さん自身が笑えていること、元気であることだというメッセージもいただきました。

後半は、ご参加いただいた保護者の皆さんでグループになり、普段、子どもたちとの関わりで気をつけていることや将来、子どもたちにこうなってほしいという思いを語り合っていました。設定された時間では足りないくらい、ご参加いただいた保護者さん同士の話し合いは尽きませんでした。また、次年度もこのような機会を設けていきたいと思ひます。



教科書センターより おすすめの書籍



以前、教科書センターにわずかながら教科書以外の一般書籍があることをお知らせしたところ、どんな書籍があるのか知りたいという複数の声をいただきました。そこで、[草津市立教育研究所HPに一般書籍の一覧を掲載](#)することにしました。ぜひ、草津市立教育研究所HPを確認してみてください。また、一般書籍は、貸し出しも行っています。読んでみたい書籍がありましたら、当研究所にご連絡ください。

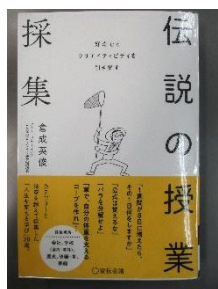
『子どもの非認知能力を育成する教師のためのソーシャル・スキル』

河村茂雄／著 誠信書房



これからの社会で必要とされる「非認知能力」。協働活動の苦手な傾向が目立つ近年の子どもたちに対し、教師として、この力をどのように身につけさせていくか、子どもたちが抱える「問題」の把握、そしてその「原因」を理解したうえで、教師ができる「非認知能力」の育成方法を、子どものタイプに応じた具体例や心理学的な理論を交えながら紹介されています。

『伝説の授業採集』 倉成英俊／著 宣伝会議



自称「伝説の授業ハンター」の著者が、教育業界から実業界、日本から海外、現代から過去、学校、家庭、企業、有名、無名…と、カテゴリーと時空を超えて採集した「人生を変える学び」20選が紹介されています。面白くて、ためになり、一生忘れない、そんな授業実践にふれると、自分の中に凝り固まった「思考バイアス」がほぐされ、新しい発想・思考を手に入れることができるかもしれません。

シリーズ

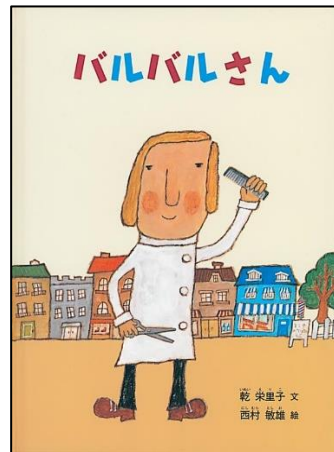
司書さんおすすめの絵本



「バルバルさん」(西村 敏雄/絵、乾 栄里子/文 福音館書店)

バルバルさんは町のはずれにある青い屋根の小さな店で床屋さんをしています。ある日、やって来たのはなんとライオン。バルバルさんはびっくりしましたが、からまったたてがみを切ってきれいに仕上げあげました。その後もいろんな動物がやってきます。原因は誰かが看板にいたずら書きをしたからでした。バルバルさんは怒りましたが、おかげで楽しかったなと落書きをそのままにします。

嫌なことがあっても、心に余裕があると面白がることができ、楽しく過ごせるかもしれません。

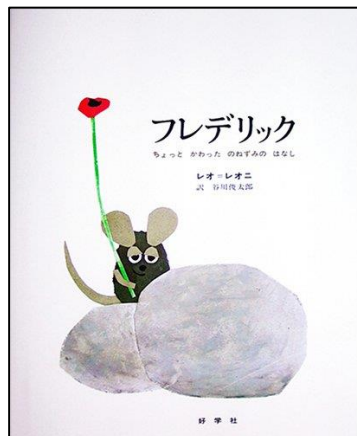


「フレデリック」(レオ・レオニ/作、谷川 俊太郎/訳 好学社)

冬の日が来るまでに小さなねずみたちは食べ物を集めて冬支度をしている。みんなは働いているのに、フレデリックだけは手伝わず、おひさまの光や色や言葉を集めているという。冬になって隠れ家にこもり、集めた食べ物を少しずつ食べていったが、なくなってしまった。そのときみんなはフレデリックが集めていたもののことを思い出した。

「君が集めたものはどうなったんだい？」

みんなで目の前の問題に立ち向かう時、最善のものだけでなく、違う視点も大切にしたいと気づかせてくれます。



「みえるとかみえないとか」(ヨシタケ シンスケ/さく アリス館)

宇宙飛行士のぼくはいろいろな星を調査している。ある星では後ろにも目がある人たちがいて、前も後ろも一度に見えるらしい。僕のことを後ろが見えなくてかわいそうってすごく気を使ってくれて変な気持ちだった。その中で生まれつき後ろの目だけ見えない人に会ったら、僕と同じだから安心した。それから生まれつき全部の目が見えない人もいて、その人の世界の感じ方はぼくとはだいぶ違った。

人はそれぞれちょっとずつ違う。同じ所と違う所、普通ってなんだろうと考えるきっかけになる絵本です。



読み聞かせなどに、ご活用ください

このシリーズは、市立図書館の司書さんのご協力を得て作成してきました。

